

南半球便り（その 86）：遙かなる木曜島

8 月 18 日

ついに、念願の木曜島訪問が実現しました。昨年も試みたものの、あいにくコロナでキャンセル。捲土重来を期した本年、関係者の方々のご尽力のお陰で、漸くキャンベラから遠路はるばる足を運び、その土を踏むことができたのです。



1. 「木曜島の夜会」に誘われて

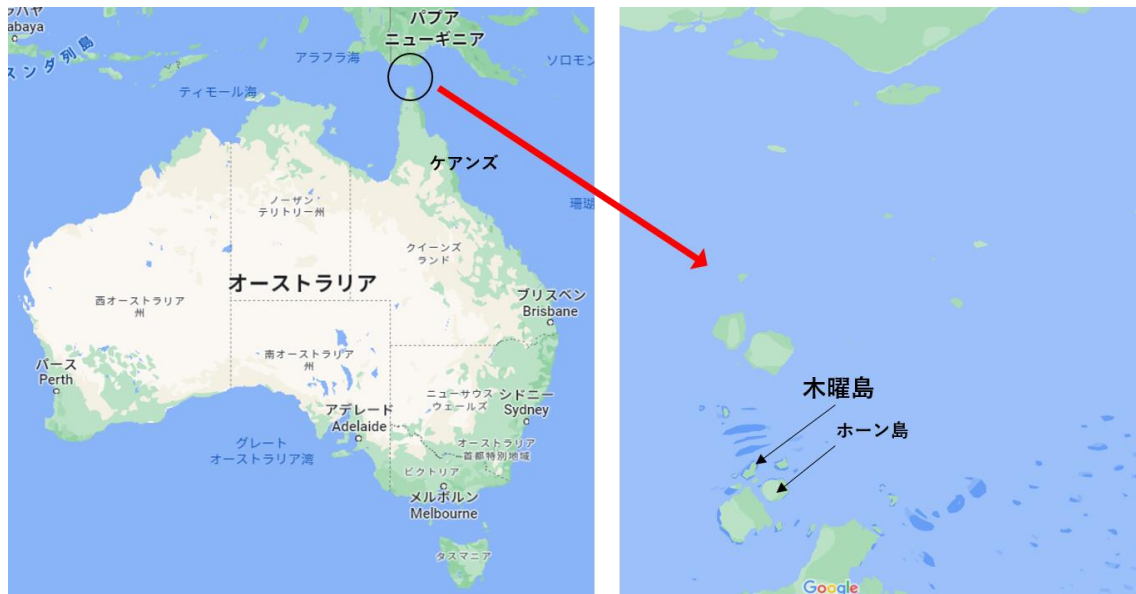
二年前、豪州赴任が内定してから、日本で手に入る豪州関係書籍を片っ端から読破してきました。その中で最も強く印象に残った一冊が、司馬遼太郎作「木曜島の夜会」でした。

学生時代から、「坂の上の雲」や「燃えよ剣」をはじめ、司馬遼太郎の主たる歴史小説は読み込んでいたつもりだったのですが、「木曜島の夜会」は盲点でした。短編だったせいか、私のレーダーにかかって来なかったのです。

一読し、自分の全く知らなかった興味深い世界が展開されていることに魅了されました。そして、いつか必ず木曜島を訪ねてみたいとの気持ちに駆られることとなりました。

2. 遠くにありて思うもの

とはいっても、どこから向かうにしても生半可な距離ではありません。木曜島は、クイーンズランド州ヨーク岬半島の先端、言い換えれば豪州とパプア・ニューギニアの間を隔てるトレス海峡の南部に位置しているからです。ちなみに、トレス海峡は、西側のアラフラ海と東側の珊瑚海とを結ぶ戦略的要衝でもあります。



出典：グーグルマップ

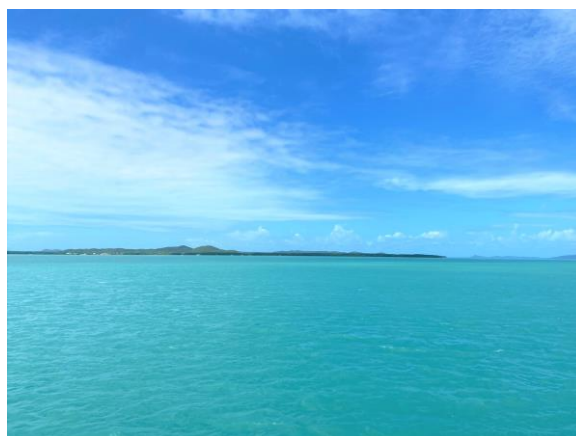
キャンベラから行く場合、ブリスベン、ケアンズの二カ所で飛行機を乗り換えてホーン島までたどり着き、そこから先はフェリーで移動しなければなりません。まさに一日がかりの行程なのです。

「何故名前が木曜島なのか？」不思議に思われるでしょうね。探検家により島が発見された日が木曜日だったそうです。ちなみに、東隣には水曜島、西隣には金曜島もあります。でも、月曜、火曜、土曜、日曜島はありません。日本の離島にこれらの名前をつけても、知的財産権違反には問われないでしょう（笑）。

3. ターコイズ・ブルー

ホーン島からフェリーで木曜島に向かった際の第一印象は、海の色が何とも鮮やかで綺麗だったことです。青と緑の中間色とも言えるし、宝石で言えばトルコ石でしょうか。オーギーがターコイズ（トルコ石）・ブルーと称しているのを聞き、「それだ！」と納得しました。

同時に、潮の流れの速さが素人目にも見て取れました。さらには、海の中にはワニもいればサメも生息しているとのこと。青空を反射した光り輝く穏やかな水面からはうかがい知れない危険が潜んでいる海なのです。道理で、木曜島のビーチでは遊泳が禁止されていました。



ホーン島から木曜島に向かうフェリーより

4. 日豪の絆

面積 3.5 平方キロ、人口 3 千名弱のこの小さな木曜島は、実は日豪関係上、大きな役割を果たしてきました。1870 年代から第二次大戦に至るまでの間、真珠貝漁業に携わるために多くの潜水夫が日本、特に和歌山県（串本町、有田村等）、愛媛県、広島県などから来訪し、真珠貝の採取で活躍したのです。



潜水夫のヘルメット（出典：和歌山県串本町 HP）

ベル状の重い真鍮製のヘルメットをかぶり、下着を何重にも重ねた上に厚い潜水服を着て、空気送風器具を使いながら海底で貝を採取する作業は、過酷な重労働でした。そんな中で、日本人の潜水夫は、他国の潜水夫の 10 倍にも及ぶ一日 50 回もの潜水を重ねたとの逸話もあります。ダイバーとしての能力が傑出しており、高い評価を受け、大きな成果を上げたのです。

同時に、トレス海峡の激しい潮流にさらされ、サイクロン、さらにはサメやクエ（魚）などとの恐怖とも戦わなければならない状況下での作業は、死と隣り合わせの非常に危険なものでした。収入が極めて高く日本への送金に恵まれた一方、潜水病などで命を落とす潜水夫は、後を絶ちませんでした。

5. 藤井富太郎氏のお孫さん達との会合

そんな木曜島で日本人潜水夫として活躍し、収容所から解放された戦後も島に残り、地元社会で重きをなされたのがトミーこと、藤井富太郎氏です。「木曜島の夜会」にも中心人物として登場してきます。

私達一行が木曜島に上陸して最初の行事が、在留邦人社会関係者との懇談会。そこに参加された方々の中には、今は亡き富太郎さんのお孫さんが二人おられました。若い頃の写真を拝見すると、富太郎さんは映画俳優のような美男子。そのお孫さん達は、その後、トレス諸島の現地人や白人の血も引き、一見するとオージーそのもの。でも、面影の所々におじいさん譲りの日本 DNA もうかがえる風貌であり、何よりも数々の貴重なお話をうかがうことができました。



木曜島の藤井富太郎氏の像

6. 慰霊祭

木曜島訪問の最大の目的は、8月15日の慰霊祭への出席でした。先述のとおり、高度に危険な作業だったため、真珠貝採取に当たっていた日本人潜水夫が700名以上も命を落とすこととなりました。



木曜島の慰霊塔

こうした方々のお墓が木曜島墓地内に設けられている上、立派な慰霊塔が 1979 年に建立されました。その際に来島された大河原良雄大使（当時）以来、私が来島した 4 人目の日本大使になると聞かされました。

2005 年からは慰霊祭が行われてきており、その開始以来、読経をされているのが、ブリスベン在住のジェームズ・ウイルソン氏（仏教名「哲雄（てつゆう）」）。増上寺で修行をされた僧侶です。実は、去る 8 月 5 日にニューサウスウェールズ州のカウラで行われた、日本兵捕虜収容所大脱走事件 78 周年記念行事でも読経をしていただきました。【カウラでの私のスピーチは、[こちら](#)でご覧いただけます。】

今年の炎天下での慰霊祭には、トレス行政区のロバン市長やバニ副市長も駆けつけてくださいました。前日の晩には、私たち一行を温かく迎える夕食会を催していただき、その際にはトレス諸島の原住民の間に伝わる伝統舞踊を地元の子供達が披露してくれる心温まる歓待ぶりでした。



伝統舞踊を披露してくれた子供達と

私の挨拶では、常日頃のトレス行政区や木曜島の方々の墓地保全努力に謝意を表しつつ、日本を遙か遠く離れた木曜島の地に眠る先達に対し、衷心より敬意と感謝の念を捧げました。【木曜島での挨拶スピーチは、[こちら](#)でご覧いただけます。】

7. 百聞は一見に如かず

今回の訪問では、実に多くの学びがありました。ロバン市長他、トレス行政区の関係者の行き届いたアレンジとブリーフィングにより、木曜島のみならずトレス行政区全体が置かれた状況について理解を深めることが出来ました。中でも、住宅不足と住宅価格の高騰が課題との指摘に頷きました。

また、ケアンズからわざわざ同行してくれたクイーンズランド州警察のケイコ・ベリー女史のご配慮により、木曜島の警察署を訪問するという稀有の機会に恵まれたのです。地元警察が直面するDVや近隣国からの麻薬密輸問題などについて意見交換ができたことも、元警察官の私にとって貴重な経験となりました。

たまたま島を訪れていた旧知のウォーレン・エンチ連邦下院議員（元豪日議連会長、木曜島を含むクイーンズランド州北部選出）とも夕食を共にしました。熟練政治家の視点を共有してもらい、大変参考になりました。



木曜島の警察署一同とケイコ女史



旧知のエンチ議員と夕食を共に

さらには、木曜島から金曜島にボートで足を伸ばしました。長年真珠の養殖に携わってこられた高見一吉・カズパール社長のご活躍を間近で拝見できたことは、何よりも心強いものでした。

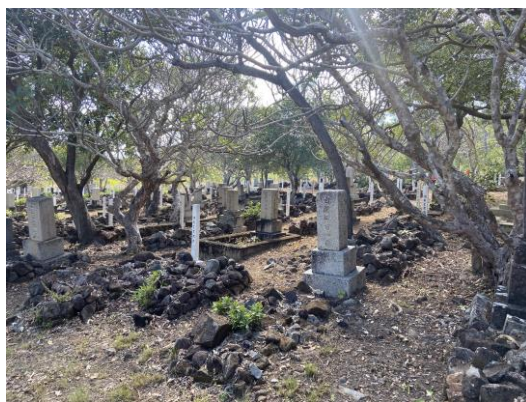


金曜島のカズパールにて

8. 今後の課題

慰霊祭の前後に墓地を見回ったところ、立派な日本式の御影石の墓石が相当数あることに気がしました。聞けば、わざわざ船で日本から運んできた由。墓碑を読めば、和歌山県出身者の多いこと。遙か南方まで真珠貝採取に赴き木曜島の地に眠ることとなった日本人の半数以上は、21歳以下で落命したそうです。望郷の思い如何ばかりかと察し、深く頭を垂れました。

もともと墓地の維持や墓標の整備は、日本政府からの財政支援を得ながらトレス行政区が進めてきてくれています。問題は、長年の歳月を経て、これらの墓石や墓標の中には、傾いたり、朽ち果てているものが増えてきていることです。こうした現状を受け、トレス行政区側としても、以前から交流がある和歌山県串本町と相談を進めているとのことですが、日本政府や企業からの支援も得て、しっかりと修繕したいとの強い意向を拝聴しました。



多くの墓石、墓標の修繕が急務

「木曜島の夜会」は、「Japanese is a Japanese. (日本人は日本人なのです。)」という言葉で締めくくられています。日本人はどこにしようとも、日本の習慣・美德を忘れず、歴史と伝統に誇りを持ち続けるという意味と受け止めました。危険を十分に知りながらも深い海に真珠貝を求めて潜り続けていった日本人ダイバーの話は、今なお語り継がれています。

まさに、木曜島で大きな犠牲を払いつつも短い生を全うした日本人が、初期の日豪関係の大事なチャプターを作り上げてきたのです。であるだけに、世代を超えて彼らの貢献を語り続け、顕彰し続けることが、後世の平和と繁栄を享受してきた者の責務であると痛感しました。

帰途、ホーン島の空港から飛び立ったプロペラ機の機窓からターコイズ・ブルーの海に引きつけられながら、「来年もまた来よう。いや、来なければならない。」と心の中でつぶやいていました。

山上信吾